

きぼうの虹フォトコンテスト特選作品  
 「秋の疾風に聳ゆ」  
 村橋究理基さん（大学院生）



発行所  
 北海道大学生協同組合  
 札幌市北区北8条西7丁目  
 教職員委員会編集  
 電話 011-746-6218

主な記事紹介

- 三面 大野池のスイレンを駆除したい
- 四・五面 第8回フォトコンテスト  
「北大百景2021〜魅力発見×再発見〜」審査結果発表!!
- 八面 大学文書館へ行く 第6回

北海道大学総合  
 博物館・助教 首藤光太郎  
 北海道大学  
 文書館 井上 高聡

この度、北大生協の理事長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願いたします。巡り合わせとはいえ、コロナ禍に喘ぐこの時期にどうして、と思わなくもありませんが、そこは「V字回復しかり得ない」と肯定的に考えて頑張りたいと思います。

言うまでもなく、北大生協の経営は他の大規模大学生協と同様、危機的な状況にあります。昨年度決算では2億円を超える赤字を計上しました。こうした状況を脱して新たな成長軌道に乗せるため、差しあたり2つのことから始めたいと考えています。

ひとつは、組合員（とその代表である理事会）と店舗など生協事業の現場とのコミュニケーションを強化することです。利用者の意見を聞いて事業を見直すことは協同組合である生協のお家芸であるはずですが、皆さんはそういう実感をもっているでしょうか。確かに、「組合員の声」など意見を表明する機会が多いですが、業務等の改善を求める意見のうち、毎年いくつが実現しているのでしょうか。まずは理事会と現場との対話や交流を盛んにしたいと思います。

もうひとつは、大学との関係強化です。大学生協は学生生活

活、研究生生活を支える基盤として、大学のブランド維持にも不可欠の存在だと考えています。ただ、二〇〇四年に国立大学法人となつて以来、基礎的な予算（一般運営交付金）が年々削減される中で、北大もお金が足りなくなり、北大生協が担ってきた様々な

困難になってきているのです。収益の上がりにくい事業から撤退し、赤字の店舗を閉める、という対応を取らざるを得ないのですが、それは北大にとって幸せなことでしょうか？

かつて有名なタレントが宮崎県知事になったことがありましたが、その時代、税金の無駄遣いを解消するとして、競争入札を徹底的に導入した結果、地元最大手の土建業者が倒産、下請け企業を含めて多数の会社と従業員が路頭に迷いました。1円でもコストを下げ、1円でも多くの収入を得るといって、一見合理的な行動は副作用が大きい場合もあるのです。

な事業についても入札によって事業者が決められるようになってきました。

それまでは、総合的な事業展開の中で、収益の上がる事業・店舗で他の事業や店舗の赤字を埋めることができましたが、今日では、収益の上がる事業では企業との競争が強いられ、総合的な事業をそのまま維持することが

### コロナ禍と北大生協と

大学院教授  
 北海道大学  
 大学院 理事長  
 北海道大学  
 農学 北大生協  
**坂爪 浩史**

Opinion!

北大生協は職域生協として、外からお金を持つて来ることはできませんが、お金を外に持ち出すこともしません。多少の利益が上がつても、それは必ず北大の中で、北大の構成員ひいては北大のために使われてきたのです。このところを大学側にもご理解頂き、学生や教職員のための環境整備とともに努力するという、戦略的な協力関係を作り上げたいと考えています。

教職員そして学生院生の皆さん、手を取りあつて北大生協のV字回復を実現致しましょう！

# 「全国教職員委員会」定例会に参加して

北大生協教職員委員会委員長 笠原 敏史

全国教職員委員会は、各ブロックおよび会員生協の教職員の組織活動の全国的なとりまとめを行っています。今回は、去る7月18日に行われました定例会の報告を通じて、全国の大学生協の現状や全国教職員委員会の活動をご紹介します。

全国教職員委員会は3か月に1度の頻度で行われ、北は北海道から南は沖縄県まで大学生協が置かれている大学の教職員（大学生協に加入されている方になります）の代表が出席します。一昨年より、COVID-19によって委員会はWeb会議で行われております。委員会には「学びと成長、読書＋α」、「食と安全」、「平和と民主主義」、「協同組合」、「環境と防災」の5つの専門プロジェクトがあり、教職員の専門性を活かしながら大学生協活動を進めています。しかしながら、コロナ禍においてこれらの活動は大幅に縮小され、委員会での協議内容はコロナ禍での大学生や教職員の教育や研究活動について、院生・学部生の生活の実態調査、情報交換などに費やされました。

本年7月の委員会では、全国大学生協連専務理事より長引くCOVID-19によって大学生協の経営は甚大な影響を受け、今後の大学生協「再生」基本計画についての報告と提案を受けました。大学生・大学院生および教職員の皆さまの支えによって成り立つ大学生協であり、コロナ感染症拡大の波による度重なる活動自粛要請は大学生協の経営を非常に厳しい状況に陥れました。急激に悪化した経営基盤を改善するためには事業の大幅な見直し、聖域をなくした再生計画の構築が必要不可欠であると報告されました。提案された再生計画案をもとに各大学生協ではさらに議論されることとなりますが、皆様の教育活動や研究活動にこれまでどおりのご支援ができる案になるものと思われれます。

全国教職員委員会では2年に1度開催される全国教職員セミナーに向けて、各プロジェクトの活動内容についての交流と教訓化を進めています。本来であれば、今年が全国教職員セミナーの開催年であり、テーマは「大学生協らしい学生支援を考える」でした。しかしながら、COVID-19の終息の見込みが望めないことから2022年に延期となりました。そのため、セミナーのテーマや内容についても見直しをすることとなり、アフターコロナやウィズコロナの学生支援やいま話題となっているSDGsへの取り組みについてなど各専門プロジェクトで議論を重ねていくところです。

全国教職員委員会では各地域ブロックによる地域ごとの取り組みや活動が報告され、活発な情報交換が行われます。今回の報告では、「地域生協（県生協連）や農業団体から大学生協が支援を受け、米や支援金を頂いた」、「某銀行より災害備蓄品入れ替えのためその一部を大学生協が受け取り、大学生に支給した」、「大学と契約していた業者食堂が撤退し、大学生協への昼食確保の要請があった」という報告がありました。このように、全国教職員委員会は全国の大学の教職員のみならず、皆様の意見交換の場となっています。



大学生協杉並会館

## いじわるじいさん

五輪開会式で難民選手団を知った。各国のメダル獲得数も発表された。難民選手はこれをどう受け止めたのだろうか。実力があっても母国代表になれない胸の内を思う▼シリアなどから逃れた彼らは、ドイツ・オランダ等の受入国から参加した。この選手団に日本からの参加者はいない。難民認定率が他の先進国に比べて極端に低いことから当然だ▼5月、政府は「出入国管理及び難民認定法等の一部を改正する法律案」を採決しようとした。出入国管理局が、難民認定申請を2回却下したら強制送還ができる、という内容の条文もある。法案審議中、テレビが難民申請中の男性と日本人妻を映した。家族離散の不安に脅えていた▼名古屋入管がスリランカ女性を病気の治療をせず死亡させたのが3月。遺族代理の弁護士が関連の行政文書を開示請求した。届いた文書はほぼ黒塗りだった。世間の目が入管に集まったこの事件の影響か、先の法案は取り下げられた▼紛争や迫害から日本に逃げてきた人々だ。他の先進国のように受け入れるべきではないか。世界の難民が8000万人という現実の前では微力すぎるが、せめて、わが国も五輪の難民チームに選手を送り出せるような国になればと願う。

(今日子)

# 大野池のスイレンを駆除したい

首藤光太郎 (北海道大学総合博物館・助教)



北大の学生・教職員や近隣住民・観光客の方々にとって、大野池は重要な憩いの場です。特に、オシドリの親子と池中に広がるスイレン（園芸品種を総称して園芸スイレンと呼ばれます）のピンクや白色の花には、多くの人々が注目しているように感じます。7月に発行された本誌394号でも、スイレンの花の写真が表紙に掲載されていました。

このスイレン、実は近年侵略的外来種として認識されるようになってきました。環境省が作成した生態系被害防止外来種リストでは、甚大な被害を及ぼす可能性があるため積極的に防除を行う必要がある「重点対策外来種」に指定され、国内の様々な場所で問題となっています。実際に、新潟県妙高市のいもり池などでは駆除が始まっています。



大野池いっぱいに広がったスイレン

現在の大野池には、ホザキノフサモやホンバミズヒキモといった在来の水草も生育しています。しかし、これらの種が見られる場所は、スイレンの葉がないところに集中しています。残念ながら大野池でもスイレンが在来の水草に与える影響は少なくなさそうで、このままスイレンが広がっていくのを放置すると、在来の水草が消滅してしまう危険性があります。

大野池だけでなく下流への影響も考慮すべきです。大野池が取水・排水しているサクシュコトニ川は琴似川・新川となって石狩湾に注ぎますが、大野池のスイレンが供給源となって下流へ広がってしまう可能性もあります。この場合は北大が汚名を被ることに繋がりがかねません。大野池や新川は人工的な水辺ですが、日本に20万箇所以上あるとされる人工のため池は在来の水草の主要な生育地として認識され、しばしば保全対象となっています。

一方で、スイレンは大野池のシンボルです。特別な思い出のある方や、駆除した方がよいと聞いて残念に思う方も少なくないと思います。実際に私も授業や講座で教材としてお世話になっていますし、花はキレイですから、残念な気持ちは理解できます。駆除にあたり、多くの配慮が必要なのは間違いありません。

そして、駆除にかかるコストも無視できません。私はかつて本州の湖沼で駆除を試みたことがありますが、水深80cm程度の場所で1m四方のスイレンを掘り取るのに、1~2時間かかりました。胴長靴を履いて作業しましたが、細かい作業をするために手を底に伸ばしたときに水が入ってしまい、作業が終わる頃には全身水浸しでした。大野池の底を縦横無尽に走るスイレンの根茎をすべて掘り取るのにどれほどの労力かかるのか、想像もつきません。もしかしたら、重機を使う必要があるかもしれません。

生物多様性に関わる身としては「駆除したい」のが正直な気持ちですが、なかなか一筋縄ではいきません。北大キャンパスは自然環境を特長の一つとした大学のキャンパスであり、アカデミックな判断が求められます。北大が率先して駆除を行うことで、スイレンが侵略的外来種であるという知識や駆除活動をより普及できるかもしれないと考えています。大野池とスイレンの行く末を、今後ぜひ注目していただければ幸いです。



スイレンを避けるように生育するホザキノフサモとホンバミズヒキモ

# 第8回 フォトコンテスト「北大百景2021～魅力発見×再発見～」 審査結果発表!!

審査員：生協学生委員会、生協院生委員会、生協教職員委員会、生協理事会室、北大写真部 から各1名

特選および各賞入賞者の皆さんには、生協電子マネーを贈呈いたします。



## 教職員委員会賞

「熊野の森の小さな北大」  
井口 光 (大学院生)

札幌キャンパスの建物を想起させる重要文化財の庁舎は、鬱蒼とした熊野の山中でも風景と馴染んでいます。

### ●審査員コメント

国内にある北大の施設で、札幌キャンパスから一番遠くに存在するのが、南紀・熊野の最奥部の集落にある（写真中央右下に見える青色屋根の建物）北方生物圏フィールド科学センター（FSC）和歌山研究林庁舎（国指定文化財・1927年建設）です。殆どの北大関係者はこの地を訪れる機会はないと思いますが、夕暮れ時の写真は、コロナとは無縁で安らかな一時と明日への活力を生み出す一枚と感じました。

## 北大写真部賞

「プリケツ」  
柿澤 彩花 (学部生)

3匹とも無防備に草を食べ続ける姿は一周回って感動を覚えます。この写真で北大羊ファンが増えることを願って。

### ●審査員コメント

人間は古来より臀部への憧憬を抱き、尻を壁画にしたり石膏でかたどったりスケッチしたり追いかけたりする対象とみなしてきました。この作品は、こうした「尻神秘主義」が現代において昇華した作品と言えるでしょう。この写真では撮影者は他の部分には目もくれず、羊の尻のみを追い求めています。この無垢なるエロティシズムは、なかなか出せません。



## 理事会室賞

「童話世界へ」  
曹中 (大学院生)

実験機材を運ぶ学生と、ちょうど雪から晴れる大学構内。童話世界のような景色は北大研究者たちの科学へのピュアな心境とぴったりと感じた。

### ●審査員コメント

冬のある朝、粉雪舞う中に液体窒素の保管容器と片手にスマホを持つ女子学生が、除雪前の道をテクテクと歩く様子を切り取った一枚は、とても北大らしいと感じました。冬に慣れると、コートを着て外に出るのも億劫になります（笑）どうしても「北大らしさ」と言うと、風景や動物が多くなくなってしまいますが、この作品は人物を構図に入れて、上手に表現されていると思いました。

## 特選

「秋の疾風に聳ゆ」  
村橋 究理基 (大学院生)

北大の秋の終わり、色づいたポプラは風になびき、ひたひたと冬の気配が迫る。

### ●審査員コメント

コロナウィルス感染症によって世の中が一変し、今日までずっと閉塞感が続いています。今回の特選作品は北海道大学の四季が凝縮されており、その雄大さを感じます。この景色の前でその開放感を味わい、北大の空気を胸いっぱい吸い込んで深呼吸をしてみたい、そんな気持ちにさせてもらいました。北大の風景が今まさに変わろうとする瞬間を見事にとらえた作品です。



## 学生委員会賞

「夏の最後、秋の初め」  
金芝萍 (大学院生)

秋の北大イチョウ並木は非常に有名ですが、秋が来る前のイチョウ並木も綺麗だと思う。緑と黄色に染まる夏秋は、一番良い時と思っている。その上、緑は「新生」というイメージを持ち、「未来」や「希望」が見えると信じている。

### ●審査員コメント

今回、学生委員会賞を選定させていただくにあたって意識したことは、一目で北海道大学内の景色だとわかることと、季節を感じられることの二点です。北大のイチョウ並木を題材にした写真は他にもありましたが、この写真がイチョウ並木の美しさを最も上手く表現していると感じました。夏の生命力あふれる緑から、落葉前に見せる最後の輝きである黄色への変遷。美しい季節の移り変わりといチョウの命を感じさせる1枚だと思います。



## 院生委員会賞

「銀世界」  
花岡 杏美 (学部生)

学校から出たら外がほんとに銀世界になってました。

### ●審査員コメント

綺麗な雪景色は北海道、北大ならではの魅力ですよね。雪の降らない地方から来た自分も綺麗な雪景色は印象的でした。見慣れすぎて何も思わなくなった人も多いかもしれませんが、身近な魅力ってそういうものですよね。この写真では雪の白さと夜の暗さと白黒がはっきりと分かれて特に綺麗に見えました。夜までサークル活動とか研究とかして帰る時に見た景色が思い出されます…。



2021年7月・8月文庫新書ランキング



夏はバンドルセールもありますので、文庫と新書が良く売れます。1位の『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』は様々な社会問題を捉えた話題の1冊です。

Table with 7 columns: Rank, Title, Author, Publisher, Rank, Title, Author, Publisher. Lists top 10 books from the 2021 July-August library new book ranking.

北大生協には「学生・院生・留学生・教職員」の4つの組織委員会があります。

北大生協組織委員会報告

学生委員会

機関紙Letter「激エモ！夏デート号」を発行しました。学生委員会の機関紙であるLetterの最新号、『激エモ！夏デート号』が各生協店舗や食堂に配架されました。今号は「エモい夏」をテーマに、おすすめデートスポットの紹介や夏のエモい過ごし方などの記事を掲載しています。学生委員会の公式HPにて電子版も公開されています。



受験生応援メールマガジンが動きました。9月24日(金)より、受験生応援メールマガジンの配信がスタートしました。北大受験に役立つ情報を毎週金曜日配信していきます。

学生委員会公式HP、Twitter
https://hokudai-coop-gi.com/
@HU\_COOP\_GI\_CS

学生委員会の活動や学生委員の日頃の様子など、学生委員会のことについて詳しく知りたい方は、公式HP・Twitterをどうぞご覧ください。

学生委員会連絡先

gakusei@coop.hokudai.ac.jp
学生委員会に意見・質問のある方は、こちらのメールアドレスにご連絡ください。
これからも学生委員会をよろしくお祈りします!!

院生委員会

7月6日、院生と生協職員とのオンライン交流会を実施しました！営業時間に関する要望や普段の利用状況について話し合い、院生も生協の経営状況を知る機会になりました。冬にも開催予定です。興味のある方はぜひご参加ください！

書評誌「ほんでないかい2021」発行準備開始！

今年も年末に「ほんでないかい2021」を発行予定です。様々な所属の学生からの書評は毎年面白いものが多く集まっています。皆様からの書評を募集します！詳細は院生委員会公式Twitterにて！

院生委員会公式Twitter

@Hokudainsei\_coop

北大大学院生に向けて情報を発信するために、昨年度4月より再稼働しました。世の中のたくさんの方々の情報の中から北大の大学院生にかかわる情報を発信しています。私たちが企画した大学院生向けのイベント情報なども発信していく予定です。大学院生や大学院進学予定の学部生のみなさんはぜひご覧ください。

院生委員会連絡先

hokudai\_insei@coop.hokudai.ac.jp
現在、院生委員会では大学院生や大学院受験を控えた学部4年生のみなさんにどのような活動・サポートができるか検討しています。困っていることや要望があればぜひご連絡ください。

教職員委員会

教職員総代会議…通常時学内7ヶ所で開催する総代会議を、7月13・14日、9月15・16日のお昼休みを利用して、3ヶ所合同でWEB会議により開催しました。

農学部で試験展開したデリバリーサービスについて、また生協の各店舗の営業時間を含むサービスに対する感想・意見・質問等をいただきました。

教職員委員会…7月15日、9月16日に対面会議・WEB会議併用で開催しました。

「きぼこの虹」…今号では、2年ぶりに開催したフォトコンテストの受賞作品を掲載しました。各作品それぞれに良さがあり、審査は大変難しかったのですが、各審査員の心に響いた作品という事で決めさせていただきました。

次号から表紙写真は応募作品の中から掲載させていただきます。お楽しみに！

編集後記

さほうの虹395号をお届けします。

今年の夏は、北海道でも緊急事態宣言の対象となり、オリンピックとパラリンピックを自宅でテレビ観戦した方々も多かったのではないのでしょうか？

ワクチンの接種が済んでいても予断を許さない状況が続いております。平穏な生活環境に早く戻れるように、北大生協も奮闘努力中です!!!

組合員の皆様もご自愛下さいませ。

一八八一年の帰国後は、開拓使・農商務省・北海道庁において十年間にわたり、西洋科学・技術に通じた人材として農政部門で重用されました。



黒田清輝作「橋口文蔵肖像画」  
(大学文書館蔵)

### 黒田清輝の作品

今回は、ちょっとしたお宝美術品を二点紹介します。

一点目は、一八八八〜九一年に札幌農学校長を務めた橋口文蔵（一八五三〜一九〇三年）の肖像画です。橋口は薩摩藩士の家に生まれ、二十二歳でアメリカに留学してマサチューセッツ農科大学などに学びました。

作者は黒田清輝（一八六六〜一九二四年）、近代日本を代表する洋画家です。黒田も薩摩藩士の家に生まれ、後に子爵となる伯父黒田清綱の養子に入ります。橋口の妻は黒田清輝の義姉（清綱の長女）にあたり、また、孫が黒田清輝の養子となって子爵を継ぎます。橋口と黒田はたいへん近い親類でした。

## 大学文書館へ 行こう

### 第6回 「お宝美術品から覗く」

北海道大学大学文書館 井上 高聡



前列中央に橋口文蔵校長、その左に佐藤昌介教授（1891年）  
(大学文書館蔵)

二点目は、橋口文蔵の次の校長佐藤昌介（一八五六〜一九三九年）の肖像画です。二〇一六年十一月、佐藤ユリ氏からご寄贈いただきました。佐藤昌介は札幌農学校第一期生です。一八九四〜一九三〇年の三五年以上にわたり、札幌農学校長、東北帝国大学農科大学長、北海道帝国大学総長として北大を牽引し続けました。

肖像画の額縁の裏書きには「Marishima 3 April 1912」贈呈 佐藤博士／明治45年4月3日 佐藤博士就職二十五年

### 有島生馬の作品

この肖像画はかなり傷んでいましたが、二〇一七年、専門家が修復し、元の作品の雰囲気を取り戻しています。

「なぜこんな作家の作品か？」と疑問を持つて、作者とモデルの関係、製作の経緯などを探ってみると、大学の歴史が意外な人物とすれ違ったり、大きな文化運動をかすめたりしていることが分かります。美術品は鑑賞の対象であるばかりでなく、大学の歴史の覗き穴となる歴史的資料でもあります。



1912年ころの有島武郎

「なぜこんな作家の作品か？」と疑問を持つて、作者とモデルの関係、製作の経緯などを探ってみると、大学の歴史が意外な人物とすれ違ったり、大きな文化運動をかすめたりしていることが分かります。美術品は鑑賞の対象であるばかりでなく、大学の歴史の覗き穴となる歴史的資料でもあります。

肖像画の額縁の裏書きには「亡父橋口文蔵画像 黒田清輝筆 / 札幌農学校御中 明治卅七年七月 男橋口兼清拜」と書かれています。札幌農学校の校友会誌『文武会会報』第四六号（一九〇五年九月）には、橋口の遺族が黒田に肖像画の製作を依頼したと、黒田は門弟に描かせて自身はそこに加筆をしたらしいことを記しています。



有島生馬作「佐藤昌介肖像画」  
(大学文書館蔵)

送ります。「平常寡言なれども一度破顔寛話すれば一派の春風を呼び来る二足る」といった表現も見られます。五月二日付けの手紙には「学長の肖像は学長には存外氣に入」ったようだと記しています。

肖像画の作者有島生馬は、個性主義・理想主義を掲げた文芸思潮「白樺派」を代表する洋画家です。「有島生馬」の筆名で活動しました。「白樺派」は志賀直哉・武者小路実篤を中心に一九一〇年に始まり、有島兄弟も主要メンバーでした。生馬のこの作品は「白樺派」初期の美術作品にあたります。

### 美術品も歴史的資料